

【小論文】

【問題】

文化財学とはどのような学問か、あなたがもっとも関心のある文化財を一つ取りあげ、具体的に述べなさい。

【設題意図】

・文化財に関する総合的な学術分野である文化財学について、その目的がいかなるものか、考えを問う。

【解答例】

文化財学とは、さまざまな資料がいかなる歴史的背景のもとで作られたかを明らかにするとともに、人文科学と保存科学の両輪からその維持継承を図る学術の分野である。

和歌山県立博物館が所蔵する日光社参詣曼荼羅は縦 148.7 cm、横 117.8 cmを計るやや厚手の紙に鮮やかな泥絵の具で高野山麓の日光社の景観を描く。近世まで日光社の祭祀に深く関わった小松家に伝来した。現状では掛幅装となるが、もともとは未使用時には折りたたんでいたことが痕跡からわかり、本来は縦八つ折、横四つ折にし、折りたたんだ大きさはおよそ縦 32 cm、横 20 cmほどとなる。使用頻度は高かったようで折り目の角付近で欠損部がみられる。

画面中央に社殿三棟を描き、その向かって右に正面四間の堂舎、左に正面三間の堂舎を配置し、これらはすべて檜皮葺として描いている。この五棟は瑞籬で区画し、中央に鳥居を配置する。瑞垣の外には、左方より多宝塔を描き、その前方に板葺の堂舎、鳥居、鐘楼、茅葺建物を描く。さらにその下に、左側に堂舎と小祠を、中央に茅葺の建物六棟を描き、最下部に川を描いている。

描かれている総数 41 名の人物は、社頭では僧侶と神人、瑞籬中央の鳥居の中に巫女を描き、瑞垣の外にも僧侶が散見されるほか、宗教者や巡礼者、芸能者など聖俗の参拝者を描いて賑わいを表している。上部には三つの峯が描かれ、各々雲で区画されて、象徴的な印象を強めている。画面上部左右両端には、各峯の注記と見られる墨消し部分があるが、下部の文字は赤外線撮影でも読み取れず不明である。

描かれている瑞籬内の建物の正面間口の合計が 12 であることなどから、かつて熊野十二所権現を祀るとする見解が有力であったが、本図の料紙を精密に確認すると、瑞籬内の左側の建物は本来右下に描かれていたものが切断され現位置に貼られていることが分かり、本来は拝殿であったと判断される。祭神名についてはなお検討が必要である。

形式化の見られない伸びやかで自由な人物表現が、清水寺参詣曼荼羅や長命寺参詣曼荼羅など 16 世紀に制作された参詣曼荼羅に通じ、本図の制作時期も室町時代後期と捉えられる。参詣曼荼羅を用いた勧進が地方社寺でも本格的に行われていたことを示す重要資料といえる。

個人の所有として伝来したが、その永続的な保存を図るため、和歌山県立博物館に寄託されたのち、寄贈された。勧進のために製作されたこと、日光社祭祀に関わった家で継承されたことが把握され、地域史理解の上での重要性から県指定文化財への指定とともに安定的な保管と継承が図られたものであり、調査、研究と保存を一連のものとして捉えて継承する文化財学の意義を強くうかがえるといえる。

【英語】

【問題】

次の英文は、弘前城本丸石垣の発掘調査の概要である。日本語に訳しなさい。  
(辞書使用可。ただし、電子辞書は不可。)

"Historic Site Hirosaki Castle Remains of the Tsugaru Clan" located in Hirosaki City, Aomori Prefecture, is the remains of an early modern castle used as the resident of a feudal lord Tsugaru Clan and as the political

center of the feudal domain of Hirosaki since its construction in the 16th year of Keicho (1611). The stone wall on the east side of the main enclosure at Hirosaki Castle was jutting out about one meter at the most toward the inner moat in the middle part of the eastern wall, with a risk of collapse of the castle tower if unattended. and therefore a dismantling and repair project is currently being carried out.

It was assumed from records of old documents that the stone wall at the eastern side of the main enclosure would show remains of three phases of construction: Keicho, Genroku, and modern. Hirosaki City had conducted an excavation research of the stone wall from the ground level of the main tower from fiscal 2013 to 2016, and recognized the back structure of the stone wall at 2.5 meters deep in the ground (equivalent to top of the 6th stone from the top). As a result of the excavation research it was revealed that among the 100 meters that was to be researched and repaired on the eastern wall, about 73 meters including the top of the foundation (tenshudai) was restacked after the modern construction, and the possibility is high that the jutting out occurred on the modern stone wall. Also, the stone walls of the three other phases were recognized in this excavation research.

#### 【解答例】

青森県弘前市に位置する津軽藩の弘前城跡は、慶長 16 年（1611）の築城以来、外様大名の津軽氏の居住地として、また、弘前藩の支配拠点として使用されてきた。弘前城本丸の東面石垣は内堀に向かって約 1m せり出しており、処置しなければ天守閣が崩壊する恐れが生じ、修理事業が実施された。

古記録から、本丸東面石垣は慶長、元禄、近代と 3 つの様相を残していると考えられた。弘前市は 2013～2016 年にかけて、天守閣の地表面から石垣の発掘調査を行い、地下 2.5m で石垣の裏込め（石垣の頂点から 6 石分）を確認した。発掘調査の結果、調査と修理のなされた 100m 分の石垣のうち、天守台を含む約 73m 分が近代以降の再建であり、近代の石垣にせり出しが起こった可能性が高いことが判明した。また、石垣に 3 時期の様相が認められることは発掘調査によっても裏付けられた。